

橋渡し・臨床加速事業部 医学研究推進事業課

大学発医療系スタートアップ 支援プログラム



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

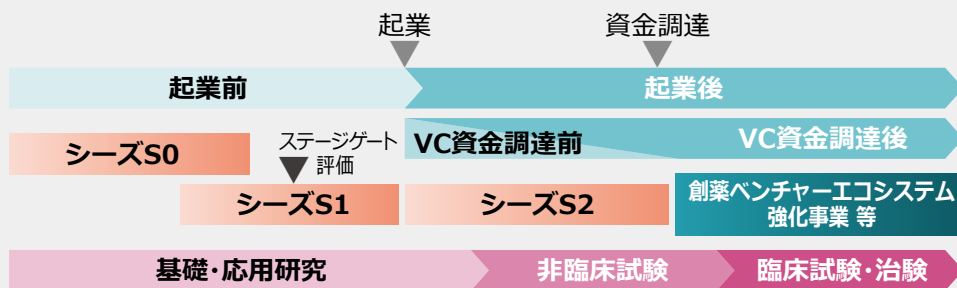
AMED『橋渡し研究プログラム 大学発医療』

我が国の医療分野を取り巻く環境

- 世界では、売上げ上位の新薬の中心が、低分子医薬品からバイオ医薬品、再生・細胞医療・遺伝子治療といった新規モダリティに変化する新たな潮流が出現してきており、我が国も対応を迫られています。また、我が国の創薬力について、医薬品を中心にドラッグ・ラグ/ドラッグ・ロス問題、我が国の医薬品等の産業の国際競争力の低下が課題であると指摘されています。
- 医療分野の研究開発の観点からは、多様なプレーヤーとの連携、出口志向の研究開発をリードできる人材、国際水準の臨床試験の実施、アカデミア・スタートアップの絶え間ないシーズ創出・育成が求められています。
- 上記のような外部環境変化により、2024年10月よりAMEDにおいて『大学発医療系スタートアップ支援プログラム』が開始され、支援拠点として4拠点(筑波大学、国立がん研究センター、慶應義塾、九州大学)が選出されました。

シーズの対象フェーズのイメージ図(個々の状況に応じて柔軟に支援)

- ▶本プログラムでは、アカデミアのスタートアップをサポート出来る体制を整備するとともに、起業を考えているアカデミアの皆様のシーズを支援いたします。
- ▶3種類のフェーズを揃えており、起業について勉強する若手アカデミアから起業をした直後のスタートアップ企業まで幅広いフェーズを対象としています。
- ▶4拠点によって支援に特色がありますので、ご自身のフェーズや、支援内容を考慮して、各拠点の公募にご参加ください。各拠点の特色については次ページの紹介ページをご参照ください。



シーズS

シーズSは支援拠点が募集・選定します。各拠点の募集案内をご確認ください。
研究期間・研究費の額は目安です。

シーズS0(若手育成)

起業を目指す若手研究人材を
発掘・育成

支援期間:最長2年間
支援額:1,000万円程度/年
研究代表機関:大学等のアカデミア
支援終了時まで、事業計画の策定
や他事業への導出等を目指します

シーズS1(起業前)

起業を目指す課題を発掘・育成

支援期間:最長3年間
支援額:3,000万円程度/年
研究代表機関:大学等のアカデミア
支援終了時まで民間からの資金調
達に関してVC、CVC、事業会社等
対話を実施した上で、起業するこ
とを目指します

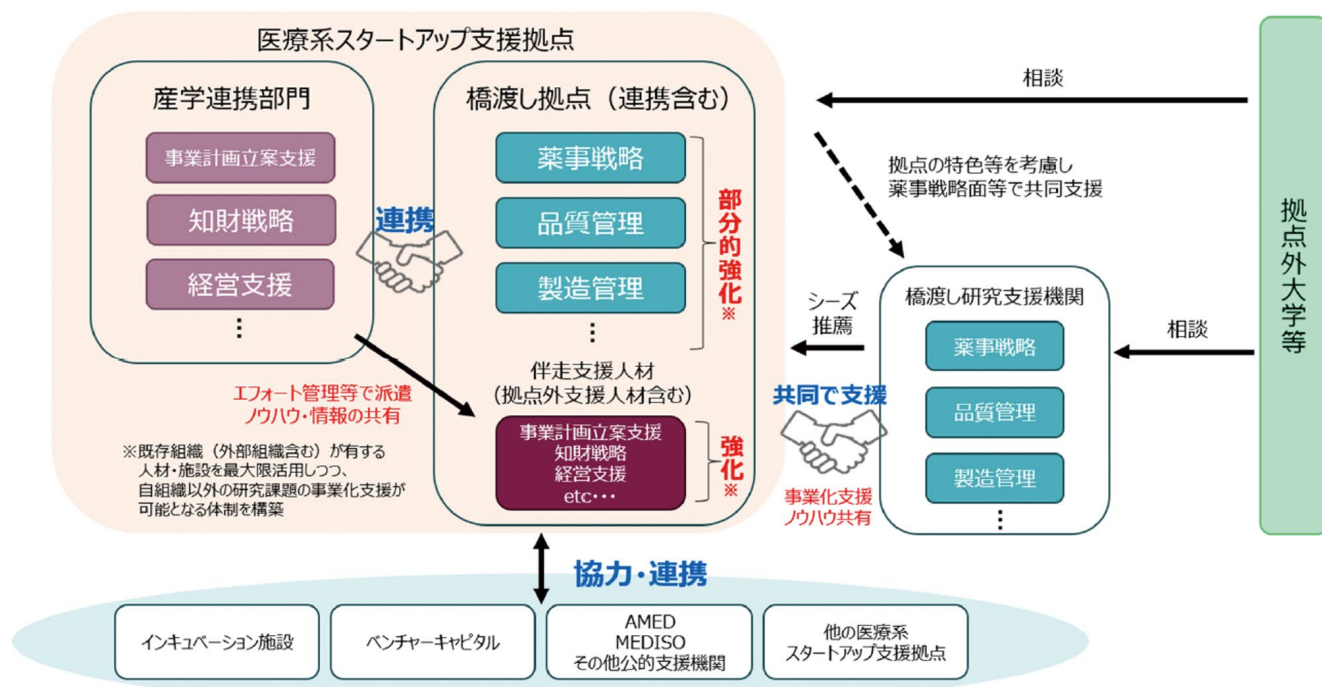
シーズS2(起業直後)

起業直後でVC等の民間資金獲
得を目指す

支援期間:最長2年間
支援額:1.5億円程度/年
研究代表機関:スタートアップ企業
支援終了時まで自走可能な民間資
金の獲得を目指します

スタートアップ支援体制

- 橋渡し研究支援機関が有する既存の実用化支援機能を最大限活用し、研究開発代表者が当該機関の支援を受けているシーズについては共同で支援します
- 支援に必要な設備や人材、事業化のノウハウを共有することにより、各スタートアップ支援拠点の特色を活かした共同支援体制の構築を目指します



| スタートアップ支援拠点 | シーズ公募 | |
|-------------|---|--|
| 筑波大学 | https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/t-credo/startup | |
| 国立がん研究センター | https://www.ncc.go.jp/html/nccce/sap/index.html | |
| 慶應義塾 | https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/startup | |
| 九州大学 | https://www.aro.med.kyushu-u.ac.jp/hashiwatashi/quick/ | |

- SU支援拠点は、事業期間(2024.10~2029.3)の間、毎年シーズSの公募を行います。
- 各拠点のシーズS募集スケジュールについてはAMED事業紹介ページでお知らせしています。

プログラムの
お問い合わせ先

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
橋渡し・臨床加速事業部 医学研究推進事業課
tr-medicalsu@amed.go.jp



国際展開を目指した 医療系スタートアップの育成拠点

橋渡し研究プログラム(大学発医療系スタートアップ支援プログラム)

採択拠点

代表機関名：国立大学法人 筑波大学

補助事業代表者名：つくば臨床医学研究開発機構 橋渡し研究推進センター

副機構長・町野 毅

主な連携・協力機関：Stanford SPARK、UCSD、慶應義塾大学、九州大学、大阪大学、岡山大学、千葉大学他アカデミア9機関 VC8社、その他民間事業者7社

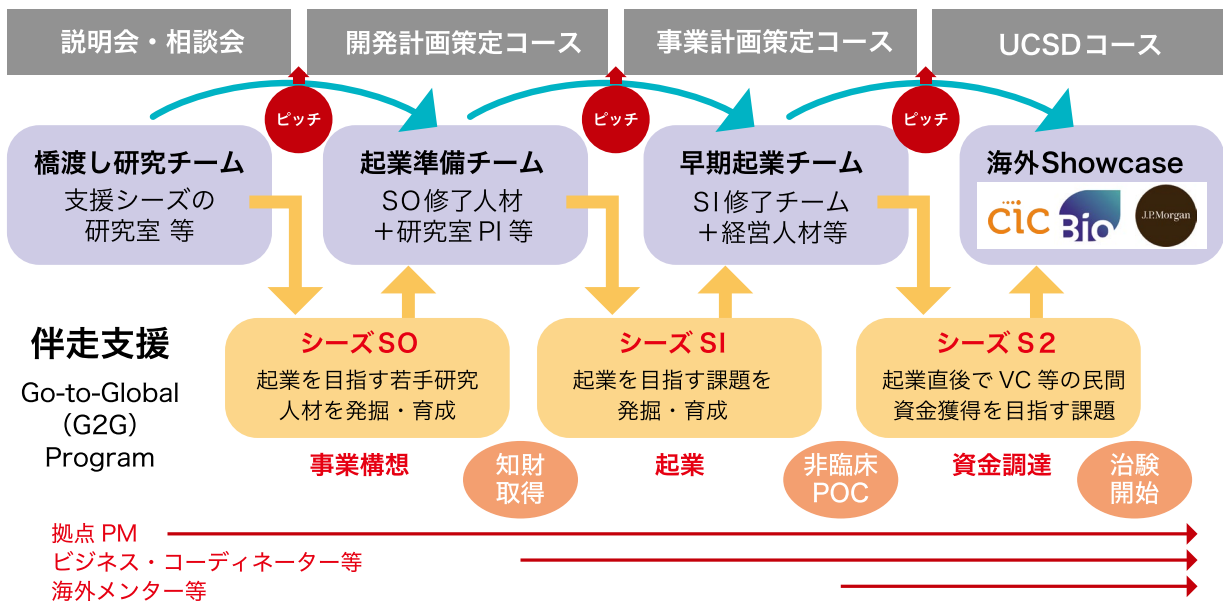


筑波大学拠点 特徴

- 2018年以降、RESEARCH STUDIO プラットフォームを基盤に、医療系スタートアップの創出を支援する独自のアントレプレナーシップ・プログラムを展開しています。これまでに、米国での3社を含む24社のスタートアップを創出し、総額130億円の資金調達を実現しています。
- 筑波研究学園都市において、先進的な研究機関との戦略的な連携を通じて、医療系スタートアップの起業に発展するイノベーションを加速させています。
- 国際展開の拠点として、日本のアカデミア発の最先端科学を基盤に、世界にインパクトを与える医療系スタートアップを育成しています。
- 大学間連携のもと、支援人材のFaculty Developmentも行っています。



人材育成：Global Entrepreneur Training(GET)Program



【事務局】 筑波大学 つくば臨床医学研究開発機構 (T-CReDO)
SU支援プログラム事務局
Mail/adm_su@md.tsukuba.ac.jp

サイエンスでがん医療の未来を創造する 大学発医療系スタートアップ支援拠点

代表機関名: 国立研究開発法人国立がん研究センター

補助事業代表者名: 橋渡し研究推進センター長/ 先端医療開発センター長・土原一哉

主な連携・協力機関: 三井不動産、中小企業基盤整備機構 関東本部、帝人、ジャパンティッシュ・エンジニアリング、
かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク(RINK)、東京大学エッジキャピタルパートナーズ
(UTEK)、Beyond Next Ventures、JICベンチャー・グローブ・インベストメンツ、AN Venture
Partners、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)、日本貿易振興機構



全体概要

橋渡し研究推進センター (CPOT) を中心に、経営面を支える国内トップクラスの VC、インキュベーションラボなどを運営する事業会社、広報・イベントを支援する団体、製造・品質管理などを受託する CRO/CDMO などから成る連携プラットフォーム、海外展開を支援する機構、海外での会社設立・ビジネス展開を支援する海外拠点などが連携するスタートアップ支援拠点を構築する。

この拠点の中で、**CXO 人材を育成する起業家レジデント制度 (Entrepreneur In Residence)、アンメットメディカルニーズに基づくシーズ育成 (カンパニークリエーション)、グローバルでの資金調達・ビジネス展開を行うための支援機能の構築**を行う。

支援シーズの選定・ステージゲート評価では、**製薬企業経験者や VC 等によるバックキャスト型の評価を取り入れるとともに、トップレベルの臨床研究者・基礎研究者によるアンメットメディカルニーズを解決するためのサイエンスの視点からの評価も重要視**する。

支援シーズ・伴走する PM を支援するために**各ステークホルダーが意見交換を行うアドバイザリーボードを組織**し、質の高い伴走支援を実現する。

これらの取組により、医療系スタートアップエコシステムを強化し、基礎研究→スタートアップ→実用化→再投資の好循環を生み出し、我が国の創薬力を強化する。また、**代表機関の特色 (がん領域のハイボリュームセンター) を生かし、がん関連領域に特化する代わりに全国のスタートアップを広く支援可能な体制を構築**する。

本事業で構築するSU支援拠点のイメージ

○アンメットメディカルニーズに基づくスタートアップ創出
日本型カンパニークリエーションモデル構築 (S0枠)

○グローバル市場での起業・資金調達・上市を
可能とする支援体制構築 (S0~S2枠)



○起業家レジデント制度によるサイエンスバック
グラウンドを持つCXO人材育成 (S0枠)

その他: (S0~S2枠)
○伴走支援および各種専門人材メンターネットワーク
(海外人材を含む)
○支援機関ネットワーク(国内・海外)
○教育プログラム(国内・海外)
○発掘・選定・ステージゲート評価体制の構築

慶應義塾スタートアップ推進拠点 (Keio Biomedical Accelerator) 構築による革新的医療シーズの早期社会実装と、大学発スタートアップ・エコシステムの創成

学校法人慶應義塾医療系スタートアップ支援拠点
 補助事業代表者名: 慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター・
 センター長・金子祐子



Keio University
 1858
 CALAMVS
 GLADIO
 FORTIOR

イノベーション推進本部
 Office of Innovation and Entrepreneurship



橋渡し拠点である**臨床研究推進センター**と、産学連携部門である**イノベーション推進本部**、そして医療イノベーションを担う**医学部による共同体制**で、慶應義塾拠点独自の特徴・特色を活かし、世界に伍する革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品等の事業化を志す大学発スタートアップを通じた医療系シーズの社会実装を推進していく

慶應義塾 医療系スタートアップ支援拠点の特長

慶應独自の研究開発支援基盤とMARCを含むネットワーク

機関内シーズ: 医学部に加え、他学部や研究拠点にも幅広くリーチし発掘

機関外シーズ: MARCなど特色ある仕組みと橋渡し拠点や産学連携のネットワーク

機関内シーズ

- 医学部
- 理工学部
- 薬学部
- 看護医療学部
- 再生医療リサーチセンター
- 先端生命科学研究所

Bio2Q
 マイクロバイオーム
 研究拠点

Health Commons
 ヘルスコモンズ
 共創拠点

機関外シーズ

MARC
 Metropolitan Academic
 Research Consortium

Keio University
 Healthcare Venture Contest
 健康医療
 ベンチャー大賞

Greater Tokyo Innovation Ecosystem
 スタートアップ・
 エコシステム共創
 プログラム
 (GTIE)

橋渡し拠点ネットワーク

他の橋渡し拠点支援

医療系シーズの発掘・育成に強みを持つ協力機関VC

選定から事業化まで一貫した
 協力・連携体制

KII 慶應イノベーション・
 イニシアティブ

AN Ventures

Saisei Ventures

大鵬イノベーションズ

三菱UFJキャピタル

MedVenture Partners

慶應義塾の特色を活用した橋渡し研究・起業支援

橋渡し拠点とスタートアップ
 支援部門の連携による継続的な伴
 走支援

KBS 慶應ビジネス・スクールの
 人気科目「起業家に学ぶ」
 の受講機会

CRIK 慶應病院内のイ
 ンキュベーション
 施設の利活用

産業界人材とのネットワーク、経営
 人材獲得支援など、大学が持つ起業
 支援の基盤・プログラムの活用

実績ある海外アカデミアや事業者と連携したプログラム

Stanford SPARK

橋渡し研究支援の
 ノウハウを日本流に
 調整し導入・運用

icom
 in collaboration with
 biolabs

日本から米国への
 展開を重視した医
 療系国際起業家育
 成プログラム

TBAP

橋渡し研究や医療
 系の起業について
 好きな時間に学べ
 るオンライン講座

上記に加え、様々な施策や連携を通じ、人材育成、ネットワーク形成、パートナー探索などを支援します。

QUICK

QUANTUM UNIVERSITY INNOVATION CYCLE FROM KYUSHU

あなたの医療系シーズ、本気で実用化しませんか？

ビジネスがわからなくても問題ありません。サイエンスの強さと実用化への熱意があれば、QUICKが全力でサポートします。



ポイント1 事業化のハンズオン支援

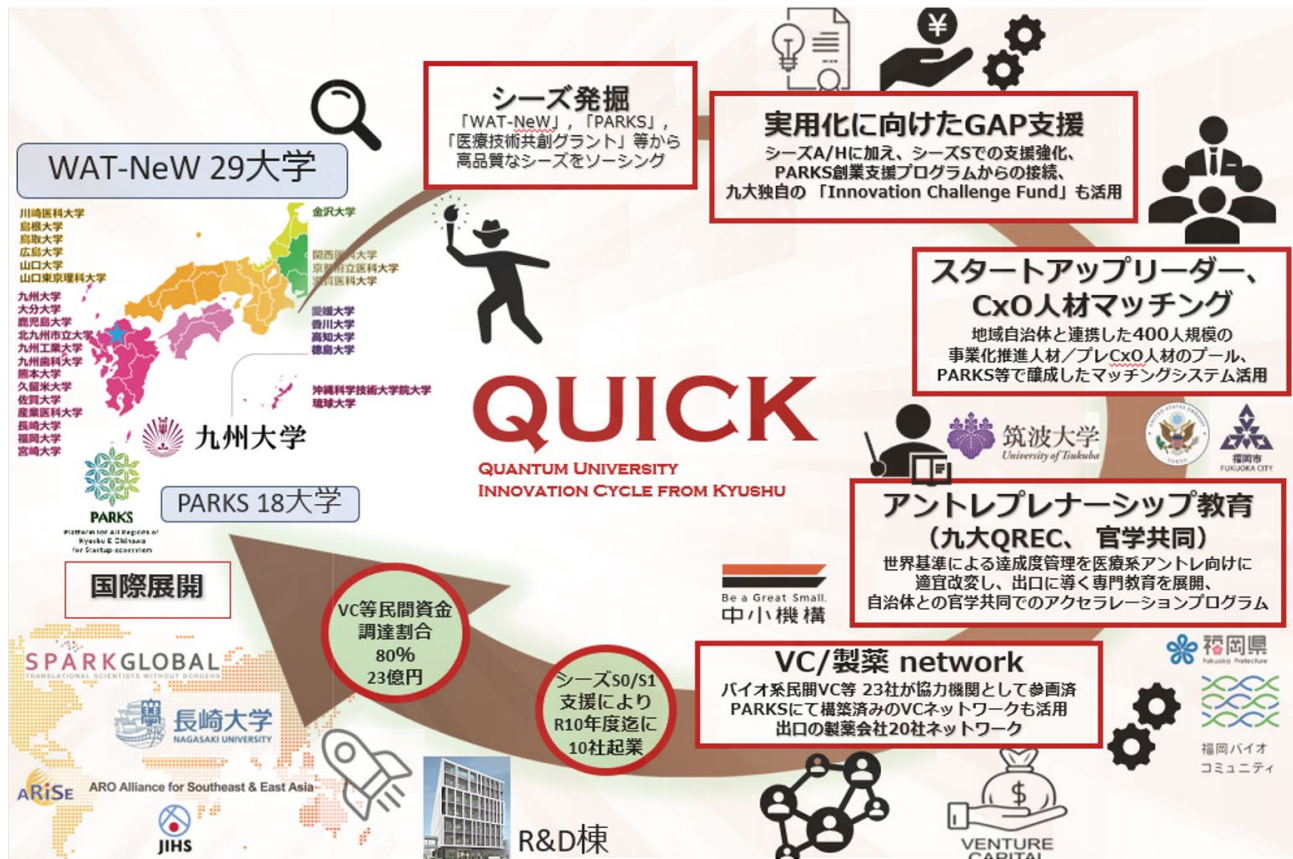
全国の有望シーズの研究開発、経営人材確保から資金調達まで事業化を支援。

ポイント2 実践的で国際的なアントレプレナーシップ教育

九州大学医療系アントレプレナーシップ講座、米国領事館英語プログラムなど。

ポイント3 感染症分野への対応とアジア・グローバル展開

長崎大学・国立健康危機管理研究機構(JIHS)との感染症分野対応、九州大学独自のアジアネットワークに加え、Stanford大学などと連携。



お問合せ・応募申込先
九州大学生命科学革新実現化拠点





国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development
橋渡し・臨床加速事業部 医学研究推進事業課

〒100-0004
東京都千代田区大手町1-7-1 読売新聞ビル22階
医学研究推進事業課 TEL 03-6870-6891